

団体名
特定非営利活動法人
ねっこぼっこのいえ

事業名

多世代多様な人々が集うことで
孤立・孤独を回避し、安心した関係性
を紡ぎ直し、より心身の健康を獲得
できるようなポストコロナにふさわしい
居場所を蘇生する事業

活動拠点 札幌市豊平区(月寒東エリア)

設立の経緯

子育て期にある家族を地域で支え合う場として、多世代が集う居場所づくりを目指し
「こどもが人との関わりの中で、希望を持って育つ地域をつくる」というミッションを掲げ設立。

私たちはこのような活動をしている団体です



「ねっこぼっこのいえ」は、「だれもが それぞれ こちよく」、0歳からシニアまで多世代が集える居場所となっています。札幌市指定地域子育て支援拠点として、地域の人たちの交流を促進できるよう、誰もが助け合い、育ち合える確かな心のよりどころとなるように、地域に根付く活動を行っています。



多世代・多様な人々が集う ポストコロナ社会での支え合い

コロナ後、身近な地域で創られてきていた関係性が途絶え、安心で必要十分な関係性がいまだ蘇生されていない状況があります。地域内で孤立した状態にある家庭や人々が安心して訪ねることのできる居場所は不可欠と考えました。その場所は、地域内で多様な関係性を紡ぎ双方向の支え合いの力を引き出し合うことで、人々の心身の健康を支えるものでなくてはなりません。このニーズを満たすため、本事業では私たちが定期的に運営している交流や学習支援のサロン(「ねっこアフター」「のんびり会」「子ども学さぼ」)やイベント、ボランティア受け入れ企画、出前居場所事業を、ポストコロナにふさわしい形で運営しました。さらに相談支援事業の展開、相談支援に関する課題の学び合い・支え合いなどにも取り組みました。

「顔の見える活動」で 地域の居場所づくりをこれからも

地域内に活用できる「居場所」があることの認知度がまだまだ低いことが、今回の取り組みから分かり、活動の大切さを再認識しました。どのようなアプローチをすれば、さまざまな年代・状況にある方に幅広く当団体を知り親しみを持っていただけるのか考えるきっかけが得られたことや地域の関係機関の方々と信頼関係を築けたことも大きな収穫でした。「顔の見える形」の活動を地道に続けていくことの大切さを実感しています。更に事業を通じて若い世代がボランティアとして関わってくれ、多世代交流に厚みが出たこと、本人たちの内側にいのちへの慈しみの思いが芽生えたり培われていく様子に触れることができたのも大きな喜びとなりました。本事業を今後の活動の広がりや継続につなげ、将来に向けた希望や展望を持つことができました。

